

理事寄稿

ことば・文化・人をつないで
—複言語・多言語教育の理念の実現をめざした 10 年とこれから—
Connecting languages, cultures and people:
Efforts toward realization of the idea of
plurilingual and multilingual education

中野 佳代子 NAKANO Kayoko¹

1. JACTFL 設立の経緯

2007 年、一般財団法人日本私学教育研究所の山崎吉朗氏を中心に、多言語・複言語教育を推進する「多言語教育研究会」(2009 年に「複言語教育研究会」に名称変更)が本格的に活動を開始した。その後研究会を NPO 法人複言語教育研究所に発展させることを構想していた。時同じくして、2006 年、公益財団法人国際文化フォーラム(以下 TJF)は、日本国内のアジア言語教育の実態調査を経て、高等学校における多様な外国語教育を推進するための「外国語学習のめやす」(以下「めやす」)の開発に着手した。高等学校の学習指導要領の外国語科目において英語しか具体的な記載がないことをうけて、他の外国語の学習指針を作成するためのプロジェクトに高大の専門家多数が参加した。多言語多文化が共生するグローバル社会を担う若者を育むとともに、若者自身の人間形成と人生を豊かにする外国語教育の在り方を提言することをめざした。具体的には、高等学校の中国語・韓国語学習の目標・内容・方法を体系的に示し、実践例を提供するウェブシステムを開発した。

2012 年 3 月 3 日、プロジェクトの成果物²の完成を記念してシンポジウム「未来を生きぬくための外国語教育に挑む～つながりを実現するアクションプラン～」を上智大学で開催した。二つの民間財団を後ろ盾に、多言語・複言語教育に力を注ぐ全国の教育者、研究者ほか約 220 名の関係者がシンポジウム開催を契機に一堂に会した。TJF は同シンポジウムの準備過程で、複言語教育研究会のメンバーとタスクフォースを立ち上げ、多様な外国語教育を推進するための行動計画を練った。行動計

¹ 所属：日本外国語教育推進機構 Japan Council on the Teaching of Foreign Languages、元公益財団法人国際文化フォーラム業務執行理事 The Japan Forum

² 公益財団法人(2012)『外国語学習のめやす 2012—高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』の発行及び「めやすウェブサイト」(現「めやす Web」)開設

画の内容は分科会でも討議されたが、何より参加者が望んだのは多様な言語や教育段階を超えて力を結集できる全国的な組織の設立だった。熱気溢れるシンポジウムの閉会式で、新組織の発足を検討することが関係者間で確認された。JACTFL 誕生への第一歩だった。日本の教育現場を支える志ある人びとによって、日本の新たな外国語教育への扉が開かれたといえる。

シンポジウムの開催後まもなく、新組織発足に向けた準備が始まった。組織の理念、目標を設定し、上記の行動計画を基に事業内容を決めた。こうして 2012 年 12 月 3 日、一般社団法人日本外国語教育推進機構/JACTFL は船出した。様々な問題を抱えながらも、最初の 10 年としては順調な経過を辿ったのではないかと個人的には捉えている。それは何よりも理事や複言語教育研究会のメンバーが、忙しい教育現場の本務の合間を縫って重要な役割を担ってくれたおかげである。

2. 多言語・複言語教育に期待すること

「めやす」は、いわば TJF の外国語教育に関する事業の集大成ともいうべきものだった。日本の高等学校の中国語、韓国語教育に焦点をあてて開発したが、やがて複数の言語・教育段階の現場でも採用されるようになった。TJF は 1990 年代より海外の初等中等教育の日本語教育を支援する事業に取り組んでいたが、「めやす」は日本国内外の日本語教育でも使われるようになった。

上述の新たな外国語教育のアプローチによる多様な外国語教育を推進し、若い人たちに様々な言語を学習できる機会を保障してあげたいと思う。なぜなら未知の言語・文化との遭遇は、自らの価値観や世界観、人生観をひろげ、人間的成長をもたらすことを実感してきたからである。しかし、それだけでなく、世界に存在する多様な言語と文化を学ぶことは、平和の構築のための文化交流の理念に通じていると考えてきた。若者たちが相互理解を深めるために互いのことばと文化を学び、つながることを実現するための外国語教育である。TJF でも、外国語教育を積極的に交流事業につなげるために、日本の高校で中国語・韓国語を学ぶ高校生と、中国・韓国で日本語を学ぶ高校生が出会い、対話し、理解を深めることができる交流事業に力をいれた。

2012 年のシンポジウム以降は、JACTFL の一員として活動を続けてきたが、10 年経った今でもこうした考えは変わっていない。JACTFL は、今後本格的に日本の外国語教育の制度と向き合わなければならないと思う。10 年の間に蓄積された経験、知見、ネットワーク、社会的認知度をさらに強化し、教育的意義が極めて深い複言語・多言語教育を日本でも推進できるよう頑張りたい。